

「学び」の成果を生かす

特集

課題

解決型

インター

ンシップ

プロ

キャリア

デザイン

センター

主催

地域の企業・自治体・NPO法人、商店街などが抱える課題に、学生が主体的に取り組む、解決策を提案する「課題解決型インターンシップ」(キャリアデザインセンター主催)に多くの学生が参加している。10月から12月にかけて行われた各チームの活動を紹介します。

「市場スイーツ」開発プロジェクト

川崎市中央卸売市場北 食発表会で、食堂街に変わる凝固剤アガール市場(宮前区)の活性化を「自家焙煎珈琲チャチャ」を使用したところがポイント。経営学部、経営学部の「協力を得て完成した。コーンフレークと池本純ゼミ、商学部のた3つのメニューを披露 みるソースを添え、市場石川和男ゼミ、岩尾詠一した。

池本ゼミは、集客を高める「プリン」と命名した。30周年に因んだ「三十三」の有志19人が「市場スイーツ」開発プロジェクトのために持ち運びできるスイーツを開発。10月21日、同市場で開発プロジェクトに参加。10月3日に着目。旬の果物を使って焼き上げた「3種のよくばりスイーツパイ」がデビューの舞台となった。

川崎北部市場盛り上げる

「活性化に貢献するのが、仕事をきちんとこなして、僕らの目的。ものごとく来たから。プロジェクトは一つの視点だけではなく、得た向上心を忘れず、いろいろな視点がある。高い志をもって就活につなげる。石川ゼミ、岩尾ゼミの飯塚仁美さん(商3)は「商品開発で最も、私は「私たちがスイーツ市長試食会」でました。」



川崎市役所で「市場スイーツ市長試食会」



市場スイーツを試食する阿部川崎市長

大切なのは、作ったスイーツを、自信をもって紹介できる。説得力を見いだすのに苦労した。実際に販売してみたい。メンバー6人、販売する時間帯や告知の場所など、知の方法などに新たな課題を感じた。感想を語り、いろいろな経験をするのはいい。が、うまく経験を積むのはいい。果にならなると、それが商品という成果になって表れる。今度もぜひ経験を積んでベテランになってほしい。

は、栗原薫市場長(「チャチャ」代表・和田大氏)各チームを代表して9人の学生が出席。阿部孝夫市長に市場スイーツ3品を試食してもらった。

- 経営・池本ゼミ 「3種のよくばりスイーツパイ」
- 商・石川ゼミ 「う〜米(まい)ロール」
- 商・岩尾ゼミ 「三十(みそ)プリン」



▲ 3種のよくばりスイーツパイ



▲ う〜米ロール



▲ 三十プリン

「地域の孤食を減らそう」テーマに活動

NPO法人に協力

平山貴博さん(文3)をリーダーとする16人は、NPO法人「ぐらす・かわさき」からの課題「地域の孤食を減らそう」に取り組んでいる。



「花巻」づくりの様子

野菜教室で「つながり」築く



旬の野菜を使った「花巻」

企画を立案。10月13日に野菜の選び方、保存方法などは、池田佳祐さん(人間科)を伝授。参加者は旬の野菜(3)から5人が川崎市中原区(「メサ・グラデ」)で「農家さんの野菜教室」に参加した高津区在住の女性1名は「「おいしい」など、なじみのうすい食材の知識を得ることができ、花巻作りのコツもつかむことができました。学生の皆さんのサポートのおかげで進行もスムーズで、また参加したいです」と感想を話した。

池田さんは「今回は地域の方向土がつながりを持つ、コミュニケーションの場を提供させていただき、参加者の皆さんに楽しんでいただくことができ、満足しています」と振り返った。

26チームが成果発表会

ポスターや商品を展示

課題解決型インターンシップの成果発表会が11月4日、生田キャンパスで開催された。「地域の課題に取り組む」をテーマに実社会で活動した26チームが、活動の成果をまとめたポスターや開発した商品などを展示し、来場者と直接対話しながら発表。鳳祭、オープンキャンパスが開催されていたこともあり、会場には教員や企業、NPO法人の関係者に加え、高校生も多数来場。学生たちは来場者の質疑に応じた。



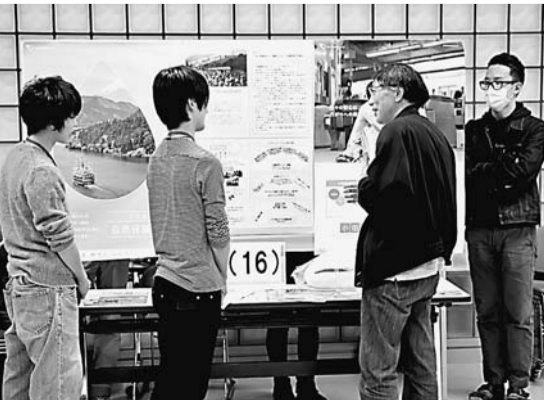
「ユニバーサルファッション(機能性おしゃれ介護服)の普及活動とweb戦略」(アソシエCHACO)



「商店会再生プロジェクト」(かつての活気を取りもどそう) (新ゆりぐりーんプラザ商店会)



「塩蔵わかめ」の改良提案〜あなたもきくと食べてみる〜 (柳西久)



「若い世代へ発信!!」(将来、小田急沿線に住みたい!)と感してもらえる企業PRの企画・立案 (小田急電鉄株)